

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	77人	算数	76人	理科	76人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	61人	算数	61人	理科	61人
------	----	-----	----	-----	----	-----

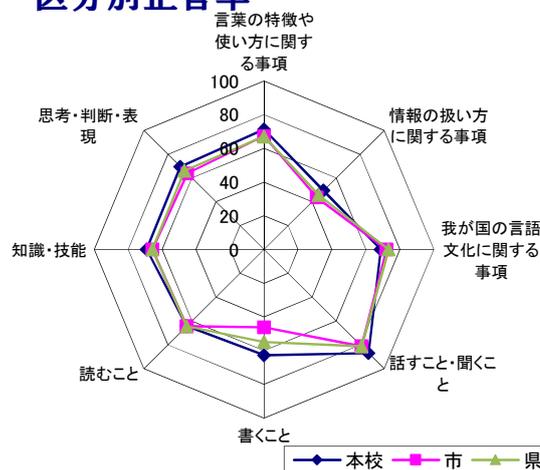
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.3	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	49.4	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	68.8	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	87.0	81.2	81.2
	書くこと	62.7	46.2	54.9
	読むこと	64.3	64.3	64.5
観点	知識・技能	69.1	65.7	65.7
	思考・判断・表現	69.6	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

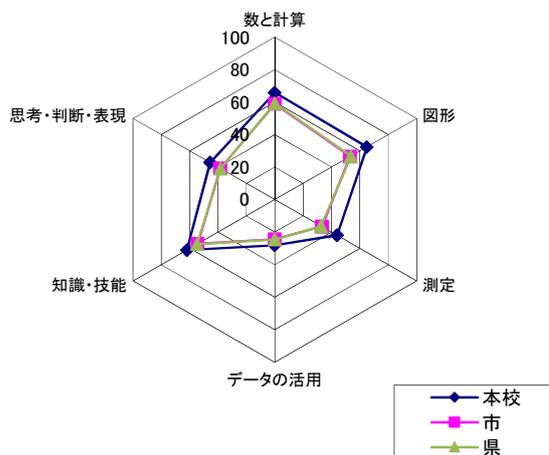
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○ローマ字表記についての設問の平均正答率は76.6%であり、県の平均正答率を21.6ポイントと大きく上回っている。 ●主語と述語についての設問の平均正答率は54.6%で、県の平均正答率を12.9ポイント下回っている。	・漢字の読み・書きに関して、AIDリルを効果的に活用しながら、授業中だけでなく家庭学習でも繰り返し練習する機会を設けて定着を図る。 ・文法を意識した「文づくり」などを取り入れ、主語と述語を活用する機会を増やしていく。 ・漢字の小テストを定期的に行い、定着を図る。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問の平均正答率は76.6%であり、県の平均正答率を12.3ポイント上回っている。	・国語辞典で言葉の意味を調べる活動や文章を要約する活動を適宜行う。 ・意味調べについて、ノートへのまとめ方など家庭学習の参考となるよう紹介する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均正答率よりやや低い。 ●漢字のへんやつくりについての設問の平均正答率は68.8%であり、県の平均正答率を4.6ポイント下回っている。	・漢和辞典で部首を調べたり、同じ部首をもつ漢字を集めたりする活動を取り入れるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○司会者の話し方の工夫についての設問の平均正答率は89.6%であり、県の平均正答率を11.9ポイント上回っている。 ○「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す」についての設問の平均正答率は90.9%であり、県の平均正答率を7.6ポイント上回っている。	・インタビュー活動などを通して、メモをとりながら要点を押さえて聞く機会を設けるようにする。 ・話し合い活動では、グループ内で順番に司会を務める経験をさせ、円滑な話し合いについて学習できる機会を設ける。また、話の聞き方では、中心となる内容を意識できるよう、課題の与え方を工夫したり、話し合いのポイントを確かめたりできるようにする。
書くこと	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」についての設問の平均正答率は66.2%であり、県の平均正答率を10ポイント上回っている。	・自分の考えを文章に書く活動を多く取り入れるとともに、段落構成や文字数などの条件を指定し、正しく書けているかを確認できるようにする。
読むこと	平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ○「叙述を基に文章の内容を捉える」についての設問の平均正答率は74.0%であり、県の平均正答率を7.0ポイント上回っている。 ●「叙述を基に段落の内容を捉える」についての設問の平均正答率は37.7%であり、県の平均正答率を14.3ポイント下回っている。 ●「場面の様子について、叙述を基に捉える」についての設問の平均正答率は67.5%であり、県の平均正答率を6.2ポイント下回っている。	・物語文では、根拠を明らかにして登場人物の気持ちや場面の様子を捉えるよう促すことで、叙述に即して読み取る力の向上を図れるようにする。 ・読み聞かせや朝の読書の時間を通して読書の推進を図ったり、国語の授業や朝の会において、好きな物語や感想を伝え合う時間を設けたりすることで、文章を読むことに慣れさせ、豊かな想像力を育めるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.9	58.9	59.2
	図形	64.9	53.0	53.7
	測定	43.8	33.1	32.6
	データの活用	28.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	62.0	54.3	54.7
	思考・判断・表現	45.6	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

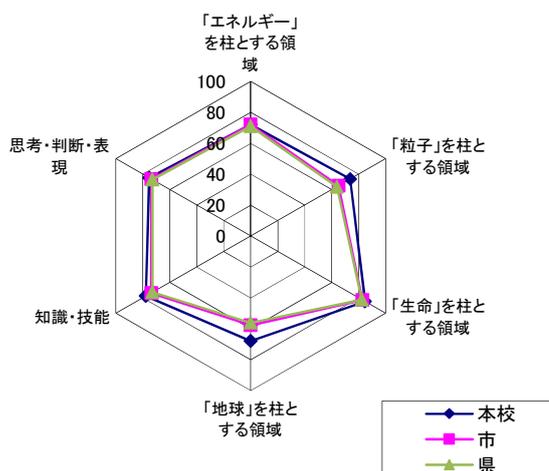
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○「数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える」についての設問の平均正答率は72.4%で、県の平均正答率を16.7ポイント上回っている。</p> <p>●「$2\text{けた} \div 1\text{けた} = 1\text{けた}$の計算をする」についての設問の平均正答率は86.8%で、県の平均正答率を3.8ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線の目盛りを等間隔に書くことで視覚的に分かりやすくしたり、1を何等分したうちのいくつ分かを確認したりして、分数についての基礎・基本を定着させるようにする。 ・朝の学習の時間や宿題等を活用して、繰り返し計算問題に取り組む機会を確保するとともに、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。
図形	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○「円の性質を利用して正三角形を作図する」についての設問の平均正答率は54.0%で、県の平均正答率を14ポイント上回っている。</p> <p>○「球の半径を利用して箱のたての長さを答える」についての設問の平均正答率は63.2%で、県の平均正答率を10.3ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な図形を描いたり、図形の性質を問う課題に取り組ませたりすることで、図形についての応用力を高められるようにする。
測定	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○「2つの道のりの差を求めることができる」についての設問の平均正答率は59.2%で、県の平均正答率を15.3ポイント上回っている。</p> <p>○「時刻と時間を理解し、時間を求めることができる」についての設問の平均正答率は40.8%で、県の平均正答率を8.1ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「時刻と時間」については、自分の身近な問題として取り組めるよう日常生活と結び付けた問題を提示したり、既習事項を復習する機会を設けたりすることで、知識の定着を図る。 ・実物時計や数直線を活用し、視覚的に捉えられるようにすることで、問題に対する理解を深められるようにする。
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○「棒グラフを身の周りの事象について活用できる」についての設問の平均正答率は19.7%で、県の平均正答率を9.1ポイント上回っている。</p> <p>●「適切な棒グラフから、示された値を読み取ることができる」についての設問の平均正答率は48.7%と、県の平均正答率を0.8ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の文章の中で重要な言葉に線を引くなどして、何を問われているのか確実に考えられるようにする。 ・棒グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に気付いたことを話し合ったり文章に表したりすることで、考えをまとめられるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.1	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	73.7	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	84.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	68.0	57.7	56.2
観点	知識・技能	77.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	75.2	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○「かげと太陽」の日光を集めたときの明るさとあたたかさについての設問の平均正答率は63.2%で、県の平均正答率を11ポイント上回っている。</p> <p>●「音の性質」の、手でにぎるとトライアングルの音が止まる理由を答える設問の平均正答率は80.3%で、県の平均正答率を3.5ポイント下回っている。</p> <p>●「磁石の性質」の、磁石の極の関係性を答える設問の平均正答率は60.5%で、県の平均正答率を7.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や考察について考える時間を十分に確保する。 ・問題について、実験の内容や結果の重要な部分に線を引くなどして、内容や問われていることを理解できるようにする。 ・磁石の単元では、S極とN極の極同士のかかわり方について内容を整理する時間を十分に設ける。 ・身近なものに関連付けて考えさせたり、考察を自分の言葉で書くことができるようにしたりすることで、単元全体の学習内容の理解を深めることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○「ものと重さ」では、全ての設問で県の平均正答率を上回っており、同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて表と関連付けて考える設問の平均正答率は56.6%で、県の平均正答率を15.5ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果について、グラフや図に表す機会を設けることで数値と関連付けて学習するようにし、正確に読み取ることができるようにする。
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○「昆虫の育ち方」の、昆虫の体のつくりについての設問の平均正答率は94.7%で、県の平均正答率を6.6ポイント上回っている。</p> <p>●「昆虫の育ち方」の、モンシロチョウ、カブトムシの育ち方とショウリョウバッタの育ち方の違いを選ぶ設問の平均正答率は88.2%で、県の平均正答率を2.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問われていることには線を引くなどして、問題を正しく捉えて答えることができるようにする。 ・さまざまな種類の昆虫について観察する機会を多く設け、観察の視点を示して比較しながら観察したり、特徴や育ち方を調べたり、成長過程の違いについて理解できるようにする。
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○「かげと太陽」では全ての設問で県の平均正答率を上回っており、特に太陽の動く方位を選ぶ設問の平均正答率は79%で、県の平均を23.8ポイントと大きく上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察ばかりでなく、考察の時間を十分に設け、実験・観察の技能の向上を図るとともに、結果から考えられることを自分の言葉で記述することができるようにし、学習内容の理解を深められるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答の割合は、87.9%で県の平均をやや上回っている。「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」と回答した児童の割合も県の平均よりやや高く、前向きな態度で学習に取り組む児童が多い。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の肯定的回答の割合は79.6%で、県の平均をやや上回っている。「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定的回答の割合は63.8%で、県の平均とほぼ同じである。引き続き、家庭学習チェックカード等を活用しながら家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図っていく。

●90.4%の児童が、「家で、学校の宿題をしている。」と回答しているが、県の平均と比べるとやや低く、一方、宿題をしていない児童も7.2%おり、これは県の平均よりやや高い。宿題の取組に関して、個人差があることがうかがえるので、個に応じた宿題の内容を吟味する必要がある。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定的回答の割合は84.3%で、県の平均より6.8ポイント高い。引き続き、学習課題に応じて班の編成を工夫したり、話し合いの視点を与えたりしながら一人一人が協働的に言語活動を行えるようにしていく。

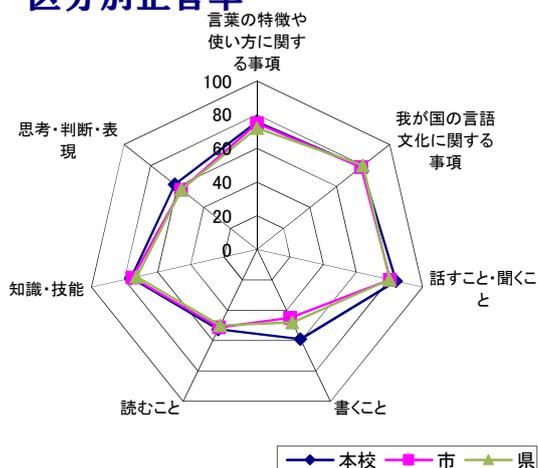
○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の肯定的回答の割合は78.4%で、県の平均を14.1ポイント上回っている。今後も、授業の中で効果的にICTを活用し、児童自らが自分のICTを活用する能力や意図に合わせて、様々な媒体から情報を得る力を養っていく。

○●「人と話すことは楽しい。」の肯定的回答の割合が95.1%で県の平均とほぼ同じである。また、「自分のよさを人のために生かしたい。」の肯定的回答の割合は92.8%で県の平均より高い。一方で、「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的回答の割合は、86.8%で県の平均より3ポイント高い。小グループ等で誰もが発言する機会を増やしたり、特別活動や道徳等の時間を活用して友達のよさを認め合う機会を増やしたりなどして、さらに自己肯定感を高めていく。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.7	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.7	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	84.0	80.4	80.0
	書くこと	59.0	45.1	48.0
	読むこと	52.5	51.3	50.0
観点	知識・技能	76.0	75.2	72.8
	思考・判断・表現	62.0	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

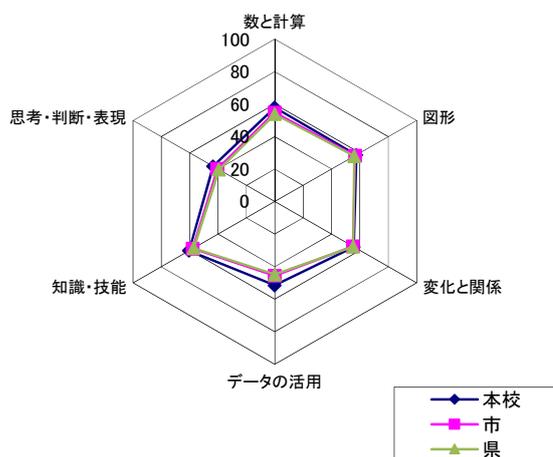
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○第4学年に配当されている漢字を正しく読んだり、書いたりする設問では、県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●修飾と被修飾の関係を捉える設問の平均正答率は67.2%であり、県の平均正答率より6.9ポイント低くなっている。</p>	<p>・漢字の読み・書きに関して、AIDリルを効果的に活用しながら、既習漢字を家庭学習等で繰り返し練習する機会を設けて定着を図る。</p> <p>・文作りを行う際に文を構成する要素にも着目させ、文法の定着を図る。</p>
情報の扱いに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや低い。</p> <p>●慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いる設問での平均正答率は78.7%であり、県の平均正答率よりやや低い。</p>	<p>・辞典や一人1台端末を用いて慣用句の意味を調べたり、それらを使って文章を書いたりするなどして、身近に取り入れる機会を設ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○話し合いの内容をもとに考えをまとめる設問の平均正答率は72.1%であり、県の平均正答率より7.3ポイント高い。</p>	<p>・聞かときのポイントを整理して、話の要点のみを短い言葉でメモすることができるようにする。</p> <p>・話し合いを行う際には、自分の考えと友達の意見との共通点や相違点に着目するなど聞かときのポイントを示すことで、互いの考えのよさに気づき、考えを深め合えるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○「文章を書くこと」の領域の設問では、全ての設問において県の平均正答率を上回っている。特に指定された長さで文章を書くことができていた児童は75.4%であり、県の平均正答率より18ポイント高くなっている。</p>	<p>・自分の考えを書くことができる機会を意図的に設け、文章の内容を整理しながら書くことに慣れるようにする。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○説明文の「文章の内容をまとめた文の空欄に適する語を書き抜く」設問の平均正答率は50.8%であり、県の平均正答率より5.6ポイント高い。</p> <p>●物語文の「登場人物の行動の理由を説明した文として適切なものを選ぶ」設問の平均正答率は70.5%であり、県の平均正答率よりやや低い。</p>	<p>・説明文の内容を読み取り、要約する活動を設ける。</p> <p>・おすすめの本を紹介する活動を意図的に設けたり、朝の読書の時間を確保したりして読書活動の推進を図ることで、文章を読み、物語の登場人物の心情を叙述に基づいて読み取れるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.9	54.9	53.7
	図形	57.4	56.6	56.1
	変化と関係	55.7	55.1	55.2
	データの活用	51.5	45.5	44.8
観点	知識・技能	60.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	43.6	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

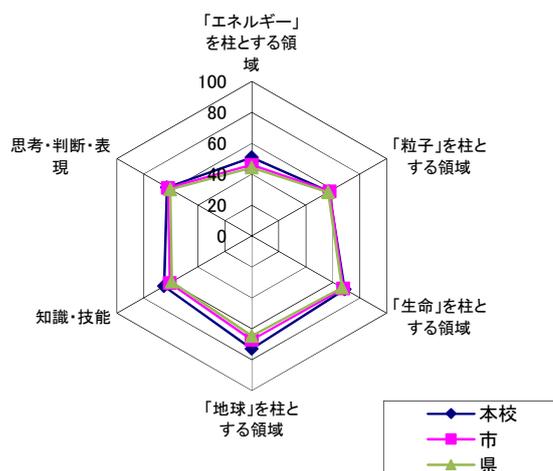
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○数直線上の目盛りが示す分数を読み取る設問の平均正答率は68.9%で、県の平均正答率を14.8ポイント上回っている。</p> <p>●小数の仕組みについて、何倍かを答える設問の平均正答率は60.7%で県の平均正答率を8.9ポイント下回っている。</p>	<p>・小数点の移動に課題が見られ、10倍、100倍のときの小数点の動かし方などについて、既習事項を丁寧に振り返りながら指導を進める。また、家庭学習でも問題演習に取り組めるように課題を用意する。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○180度より大きい角の大きさを求める問題の平均正答率は54.1%で、県の平均正答率を8.6ポイント上回っている。</p> <p>●立体の展開図を選ぶ問題の平均正答率は63.9%で、県の平均正答率を6.5ポイント下回っている。</p> <p>●平行四辺形の作図をする問題の平均正答率は41.0%で、県の平均正答率を4.7ポイント下回っている。</p>	<p>・立体の展開図について課題が見られたため、具体物などを用いて視覚的に捉えられるようにする。また、側面や底面のつながりについての規則性についても理解できるよう指導する。</p> <p>・作図については、垂直や平行な線の引き方を復習し、既習事項を応用して平行四辺形やひし形などの作図ができることを理解させ、反復練習に努める。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>○比べ方について、差を用いる場面と割合を用いる場面について説明する設問の平均正答率は41.0%で、県の平均正答率を11.6ポイント上回っている。</p> <p>●表を縦にみることで、伴って変わる2つの数量の関係を表す設問の平均正答率は29.5%で、県の平均正答率を13.3ポイント下回っている。</p>	<p>・比べ方についての見方、考え方を高められるよう、引き続き既習事項を丁寧に振り返りながら指導を進める。</p> <p>・伴って変わる数量については、数の変わり方のきまりに着目して継続的に指導を行う。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○折れ線グラフから、必要なことを読み取る設問の平均正答率は72.1%で、県の平均正答率を16.4ポイント上回っている。</p> <p>○グラフから正しく変化の様子を読み取る設問の平均正答率は16.4%で、県の平均正答率を7.6ポイント上回っている。</p> <p>●2次元の表の意味を理解し、傾向を読み取る設問の平均正答率は44.3%で、県の平均正答率を1.1ポイント下回っている。</p>	<p>・児童の実態に合わせて、他教科との関連を図り、様々な表についての内容を多角的に理解できるようにする。</p> <p>・2次元表を自ら作成して理解を深めたり、2次元表の問題を反復して取り組んだりすることで、読み取る力を高めることができるよう指導を行う。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.8	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	57.4	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	68.9	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	73.0	67.2	64.6
観点	知識・技能	65.0	60.8	59.2
	思考・判断・表現	62.9	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○「電流の働き」についての設問では、全てにおいて平均正答率が県の平均正答率を上回っている。特に、簡易検流計の使い方を問う設問の平均正答率が42.6%であり、県の平均正答率を12.4ポイント上回っている。</p>	<p>・単元内でそれぞれの実験や結果を関連付けて指導することを意識し、単元全体の理解を深められるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>○「水のすがた」の、湯気と水蒸気の違いの設問では、平均正答率が47.5%であり、県の平均正答率を16.5ポイント上回っている。</p> <p>●「空気と水の性質」、空気の性質についての設問の平均正答率は78.7%であり、県の平均正答率を5.4ポイント下回っている。閉じ込めた空気と水の性質を身近な出来事と関連付けられるかを問う設問では、平均正答率が52.5%で、県の平均正答率を9.8ポイント下回っている。</p>	<p>・学習した内容と身近な現象と関連付けて考えさせたり、考察を自分の言葉で書かせたりして、学習した内容の理解が深まるようにする。</p> <p>・実験の予想や結果を記述させる活動を積極的に取り入れることで、理論的な思考を整理して記述できる力をつけていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○「季節と生物」の、季節ごとの動物の活動を問う設問の平均正答率が78.7%であり、県の平均正答率を5.1ポイント上回っている。季節と植物の様子を問う設問の平均正答率は42.6%であり、県の平均正答率を5.4ポイント上回っている。</p> <p>○「人の体のつくりと運動」の、筋肉の働きに関する設問の平均正答率が68.9%であり、県の平均正答率を6.7ポイント上回っている。</p> <p>●「季節と生物」の、夏の植物の成長を問う設問の平均正答率が75.4%であり、県の平均正答率を5.1ポイント下回っている。</p>	<p>・夏の植物の成長を問う設問に課題が見られたため、夏の植物を育てる機会を設け、季節ごとの植物の様子を実体験に基づき考えることができるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p> <p>○「天気の様子」の、空気中の水蒸気が冷やされると液体の水になることを問う設問では、平均正答率が70.5%であり、県の平均正答率を21.3ポイント上回っている。</p> <p>○「月と星」の、星の動きと星座の並び方について問う設問の平均正答率は78.7%であり、県の平均正答率を15.1ポイント上回っている。</p> <p>●「雨水の行方と地面の様子」の、水の流れについて身近な出来事と関連付けられるかを問う設問では、平均正答率が85.3%で県の平均正答率を2.2ポイント下回っている。</p>	<p>・学習した内容と身近な現象と関連付けて考えさせ、考察を自分の言葉で書いたりする機会を多く設定し、学習した内容の理解が深まるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答の割合は78.1%、「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の肯定的回答の割合は87.5%で、どちらも県の平均をやや上回っている。引き続き児童の興味、関心を高められる授業や教材等の工夫をし、主体的な学びを促せるようにしていく。

○●「家で計画を立てて勉強している」の肯定的回答の割合は75%で、県の平均とほぼ同じである。また、「家で学校やじゆくの決められた宿題のほかにも自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合は65.6%で、県の平均を上回っている。一方、「学校の宿題はやりたくない内容だ」の肯定的回答の割合は48.5%で、県の平均を下回っている。引き続き家庭学習カード等を活用し、児童の意欲を高めながら家庭学習の習慣化と充実を図るとともに、宿題への意欲や取り組む意義を感じられるよう、内容を工夫したり児童一人一人の頑張りを称賛したりしていく。

○●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答の割合は86%で、県の平均を上回っている。一方、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定的回答の割合は70.4%で県の平均を下回っている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」について、「得意ではない」と回答した割合は32.8%で、県の平均を上回っている。友達との学び合いに充実感を感じている児童が多い反面、自分に自信がもてず、話し合いに消極的な児童が一定数見られている。少人数グループでの話し合いの機会を多く取り入れるとともに、自分の考えを書いたり話したりするなどして表現できるよう、支援の工夫を図っていく。

○●「人と話すことは楽しい」の肯定的回答の割合は100%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答の割合は92.2%で、県の平均をやや上回っている。一方、「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答の割合は79.7%、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答の割合は57.8%で、県の平均をやや下回っている。特別活動や学校行事、道德等の時間を活用し、自分のよさを感じたり友達のを認め合ったりする機会を増やし、自己肯定感を高められるようにしていく。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじようほうを得ている」の肯定的回答の割合は70.4%で、やや上回っている。引き続き、授業や学校生活の様々な場面におけるICTの効果的な活用を推進し、児童のICT活用能力の向上を図っていく。

宇都宮市立岡本北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化	「宇都宮モデル」を意識した授業を構成するとともに、「授業改善チェックリスト」を定期的に活用し、授業力と学級経営力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。	「授業の中で目標がしめされている」等、宇都宮モデルの授業実践に係る設問への肯定的回答の割合は、県の平均を上回ったものが多い。宇都宮モデルを踏まえた授業構成が定着した様子がうかがえる。各教科の調査結果についても、県や市の平均を上回った領域・観点が多く見られた。 学年間のばらつきはあるものの、「家でテストで間違えた問題について勉強している」や「家で宿題の他に自分で考えた勉強をしている」等の設問について、県や市の平均を上回る項目が見られる。児童の家庭学習への意欲が向上している様子がうかがえる。
主体的に学び考えを広げる児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり	児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらいを達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」や「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」への肯定的回答は、県の平均を上回っている。児童が安心して話し合いに参加し、学びの充実感を得られる機会が増えている様子がうかがえる。 「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答は、県の平均を上回っている。振り返る活動が定着した様子がうかがえる。引き続き、振り返りの時間の充実を図れるようにしていく。
1人1台端末、ICTを活用した授業改善の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着	タブレット端末の日常的な利用を推進し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実を生かせるようにしている。	「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」への肯定的回答の割合は県の平均を上回っている。「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」等への肯定的回答は、県の平均とほぼ同じであった。引き続き、タブレット端末の調べ学習のツールとしての利用や図書資料の活用等について、工夫を図れるようにしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科における児童の学びの充実感と学んだことと実生活との関連	児童にとって、解決の必要性の感じられる学習課題設定の工夫	日常生活との関連を重視した単元の導入や見通しの持たせ方、振り返り活動の充実を図り、児童の学びの充実感や、学んだことを日常生活に生かそうとする態度の育成に努める。